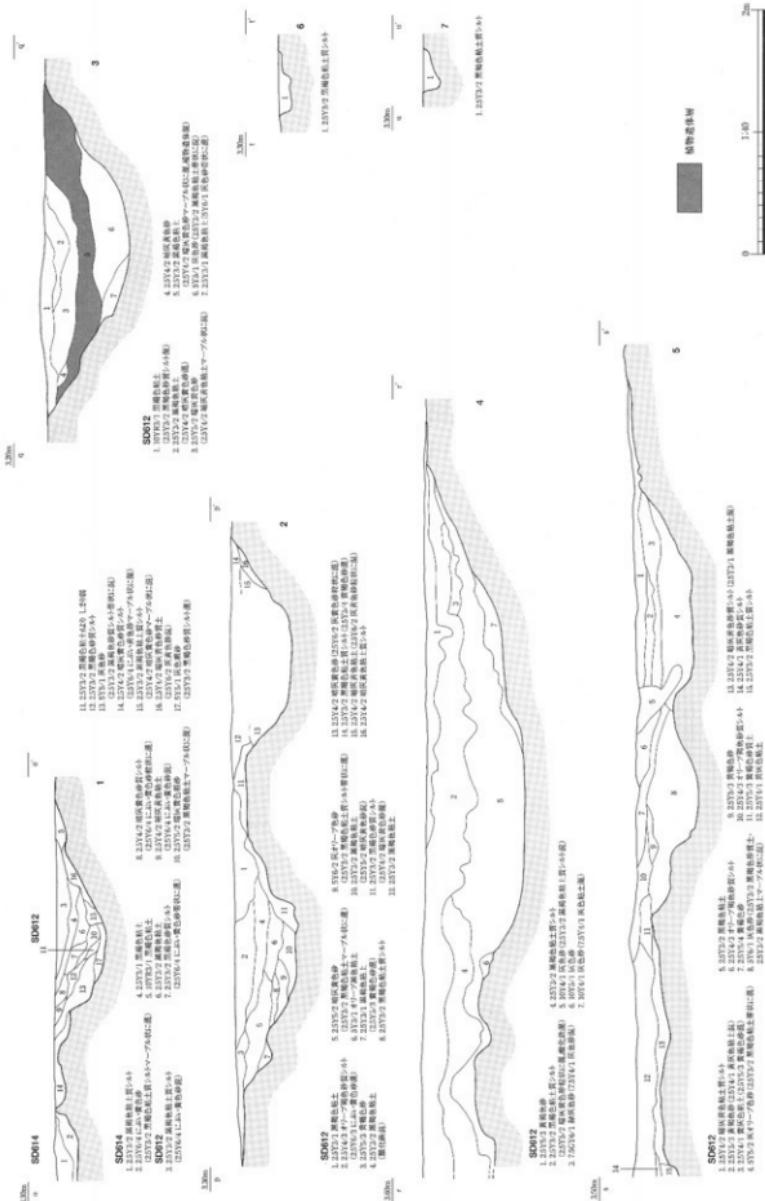
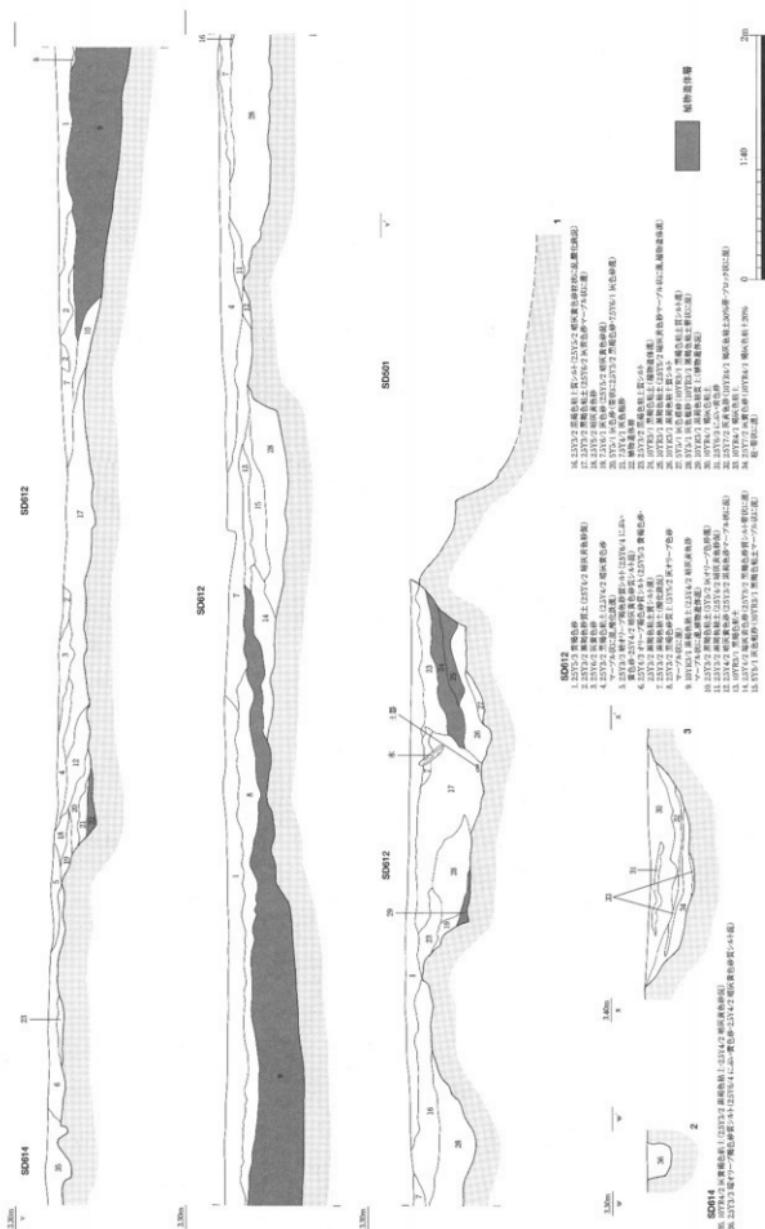


第276図 大野江淵遺跡 中近世遺構実測図  
1~5 SD612

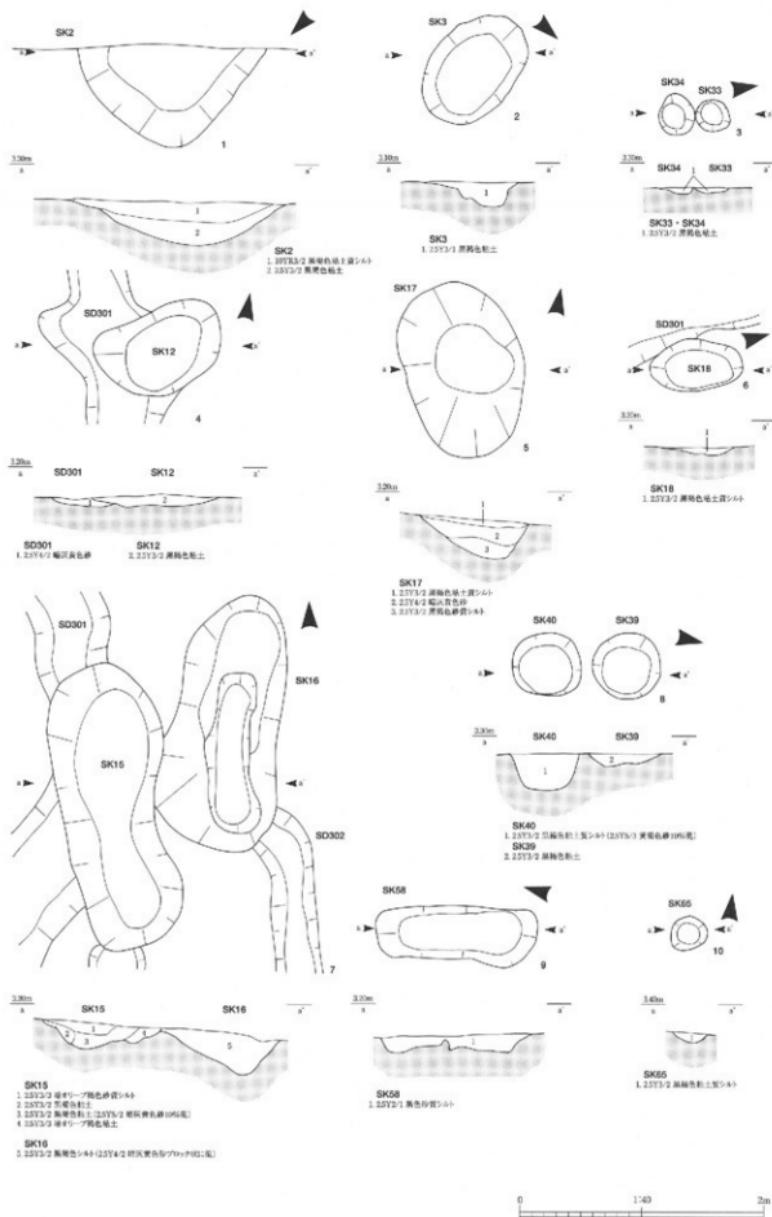


第277図 大野江洞遺跡 中近世遺構実測図  
1. SD612・SD614 2~7. SD612



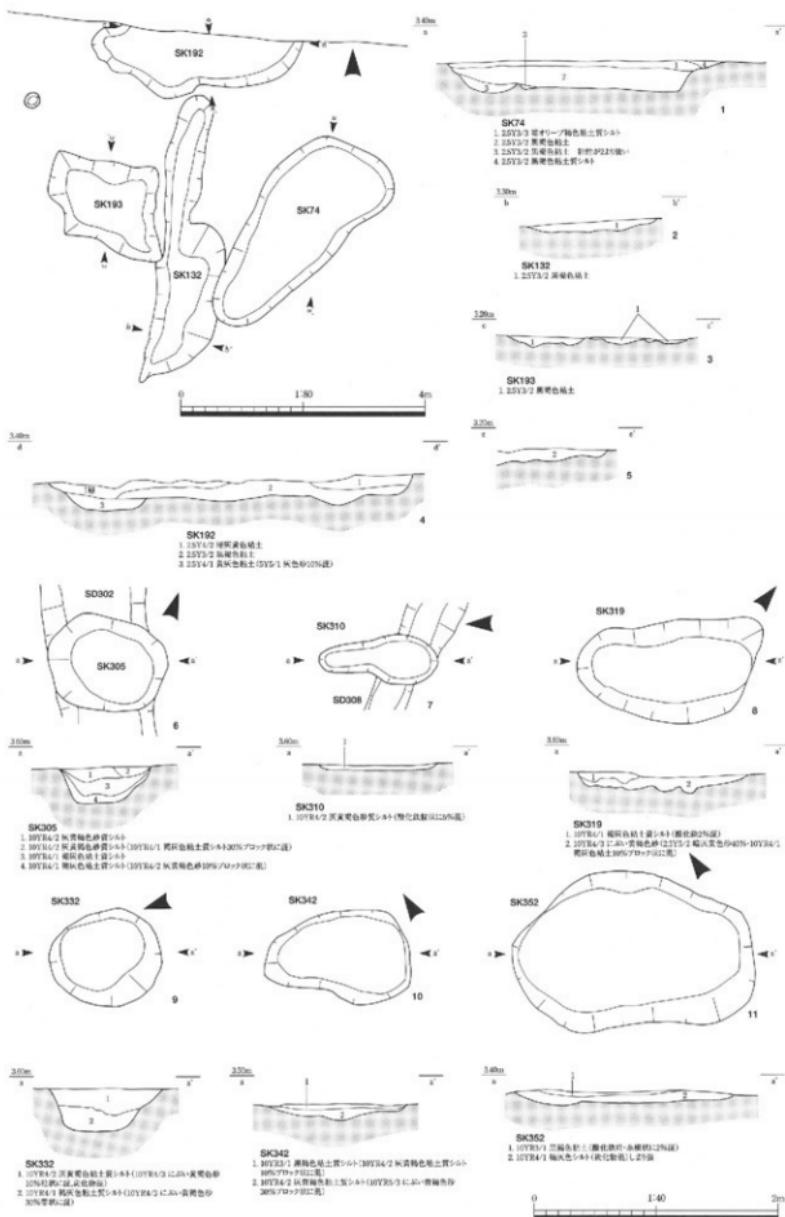
第278図 大野江淵遺跡 中近世遺構実測図

1. SD501 : SD612 : SD614 2. SD614 3. SD612



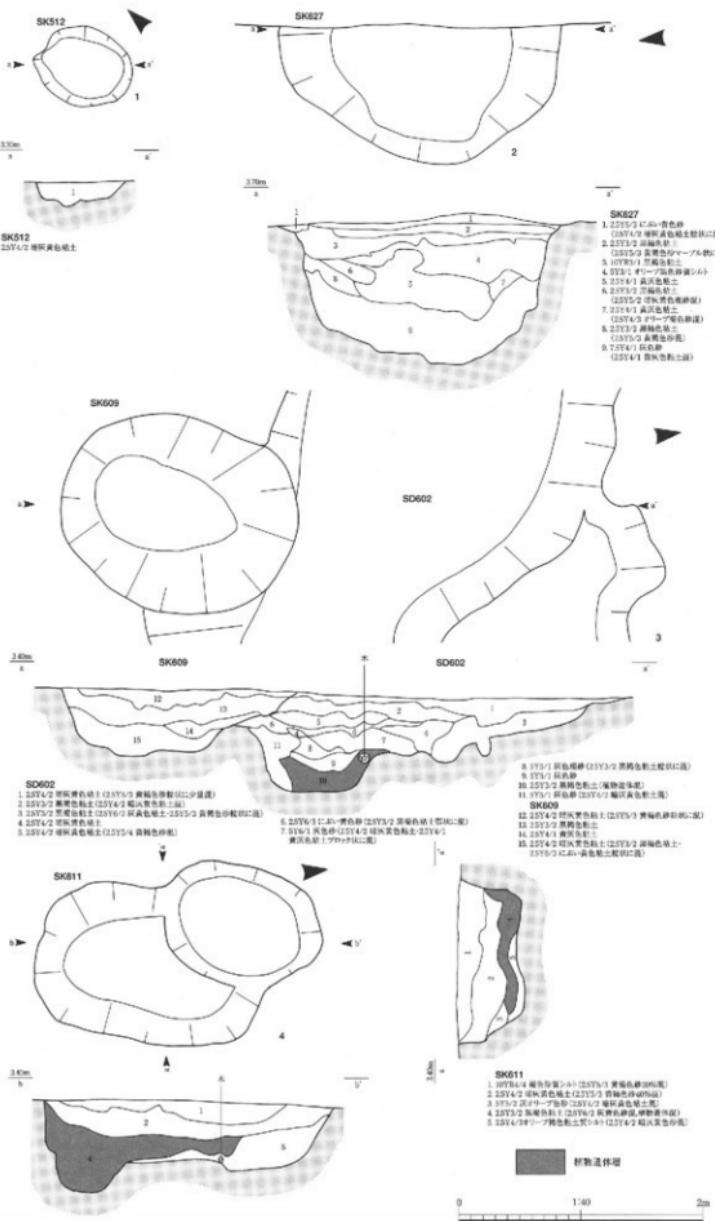
### 第279図 大野江洞遺跡 中近世遺構実測図

1. SK2 2. SK3 3. SK33 - SK34 4. SD301 - SK12 5. SK17  
6. SK18 7. SK15 - SK16 8. SK39 - SK40 9. SK58 10. SK65



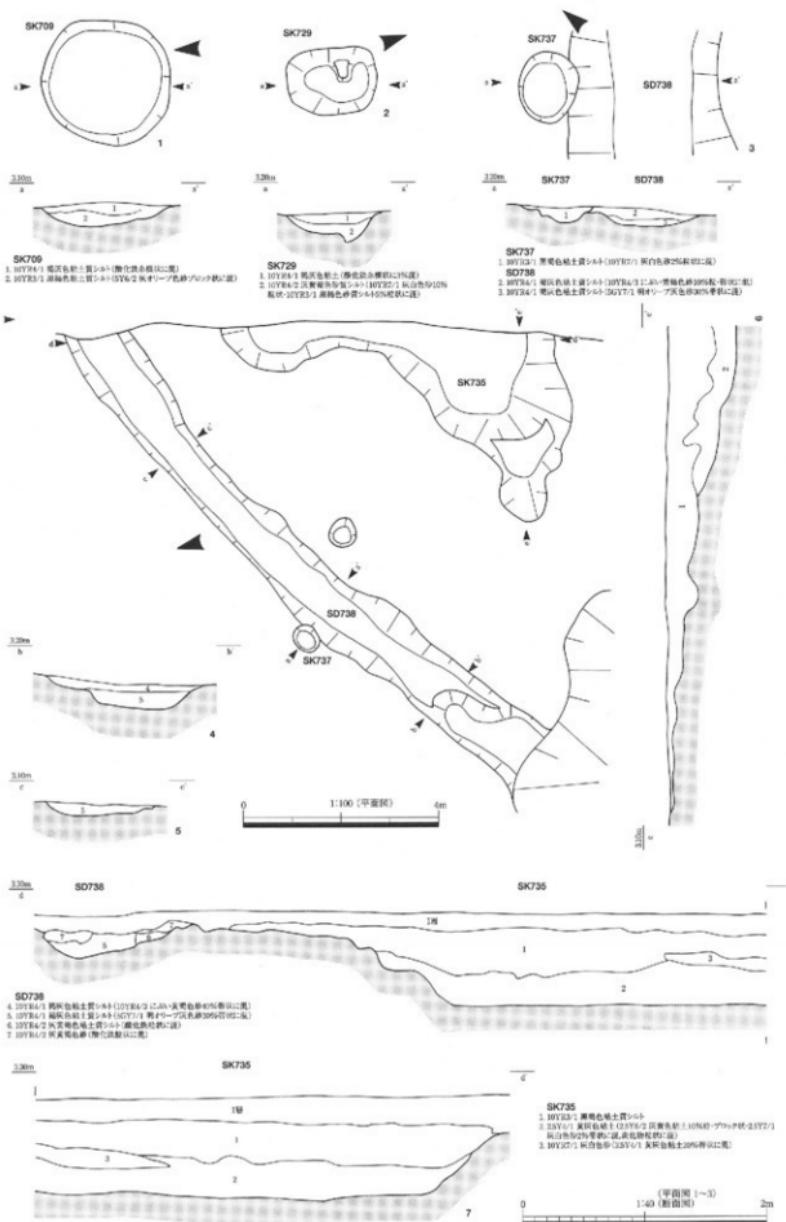
第280図 大野江洞遺跡 中世構造実測図

1. SK74
2. SK132
3. SK193
4. 5. SK192
6. SK305
7. SK310
8. SK319
9. SK332
10. SK342
11. SK352



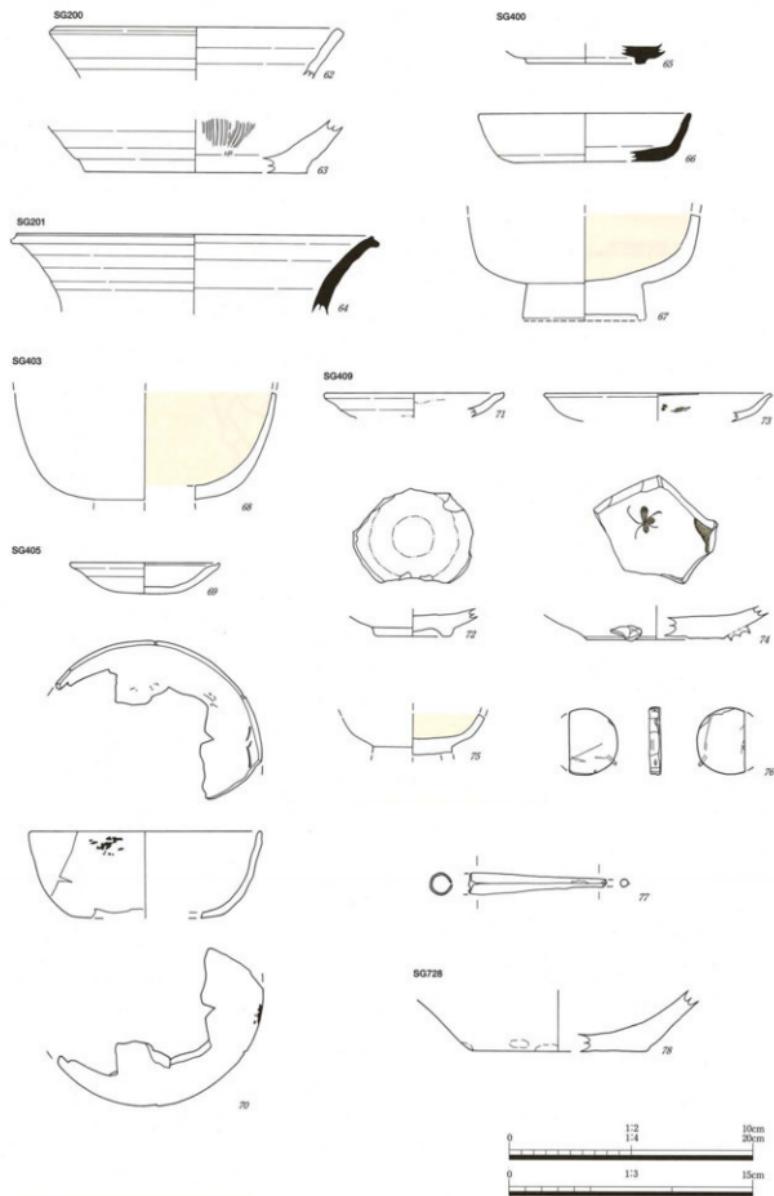
第281図 大野江洞遺跡 中近世遺構塞測図

1. SK512 2. SK627 3. SD602 · SK609 4. SK611

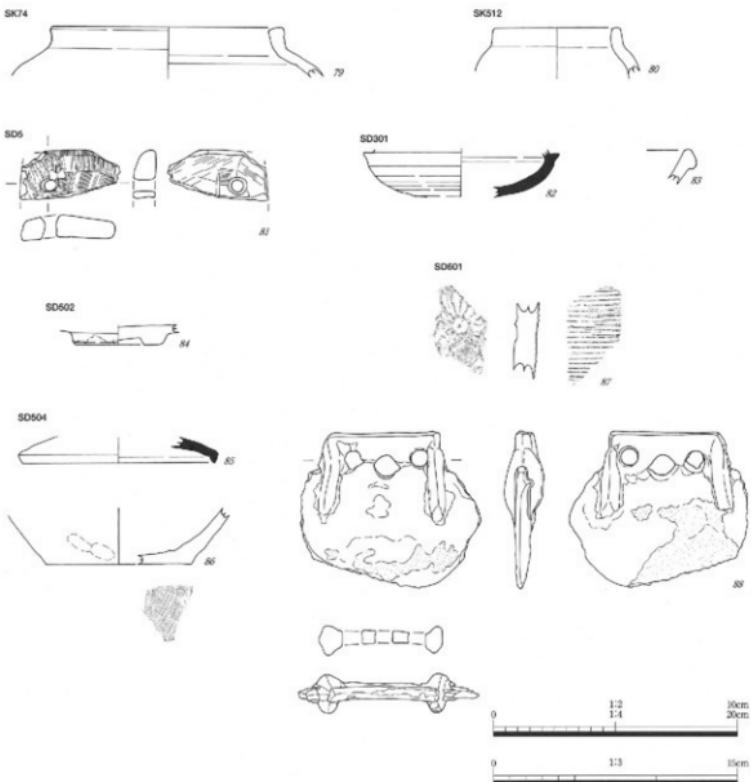


第282図 大野江淵遺跡 由近世遺構審測図

1. SK709 2. SK729 3. SD738 : SK737 4-5. SD738 6. SK735 7. SD738 : SK735



第283回	大野江淵遺跡	遺物実測図	土器・陶磁器・木製品・金属製品	(77 1/2, 65~76 SG200 (62~63) SG201 (64) SG202 (78)	SG400 (65~67) SG403 (68) SG405 (69~70)	SG409 (71~77)
-------	--------	-------	-----------------	--	---	---------------



第284図 大野江淵遺跡 遺物実測図 土器・陶磁器・石製品・金属製品 (88 1/2, 79~85・87 1/3, 86 1/4)  
 SD5 (81) SD301 (82・83) SD502 (84) SD504 (85・86) SD601 (87・88)  
 SK74 (79) SK512 (80)

### 3 包含層出土遺物

#### (1) 土器・陶磁器

弥生土器（第285図89）

89は弥生土器の高杯の口縁部。調整はヨコナデだが、摩耗が激しく不明瞭である。

中世土器（第285図90・91、図版145）

90は皿で、口径10.8cmに復元される。外底面は無調整で、内面にはススが付着する。91は非ロクロ成形で口縁部に一段のヨコナデを施す。口縁端部に面をとらない。口径は13.8cmに復元される。灯明皿で口縁部内外面に油煙痕がみられる。いずれも13世紀から14世紀のものと考えられる。

珠洲（第285図92～98、図版145）

92・93は壺である。92は口縁端面と口縁部内面に櫛目波状文を施す。93は口径20.0cmで、頭部にやや膨らみを持つ。92・93はⅢ期からⅣ期に比定される。94は壺の口縁部で、くの字口縁の端部は短くおさまる。Ⅳ期～V期に比定される。95～97は擂鉢である。95は口径36.0cmで、内面の卸目は一単位2.8cmで9目である。Ⅱ期か。96は方頭口縁の端部が軽く外傾し、口縁部の器厚を薄く仕上げる。Ⅱ期に比定される。97は、内傾した口縁端部の端面に櫛目波状文が施される。内面上半には沈線状の成形痕が等間隔に3条巡っており、2条目の直下から底部に向かって太い櫛歯の原体による卸目を隙間なく放射状に施すものである。胎土は粗く、外面の調整は粗雑なロクロナデであり、外面上部には幅広の原体による凹線文を施すものである。VI期に比定される。98は小型鉢の口縁部で、方頭口縁の端部は軽く外傾している。I期～II期に比定される。

中国製陶器（第285図99・100、図版148）

99は龍泉窯系青磁碗の底部で、12世紀後半のもの。削り出し高台で疊付けは無釉である。100は漳州窯系粗製染付皿の底部で内面に文様を施す。17世紀前半、明末の呉須手である。高台およびその周辺に砂目積みの砂粒が付着する。

越中瀬戸（第285図102～116、図版146・147）

102・103は皿である。102は見込みと外面体部下位から高台は露胎する。高台内に判読不明の墨痕がある。103は内面に灰釉を施す。見込みに釉止めの段があり、17世紀のものとみられる。104・105は皿の口縁部である。104は底部から体部が外側に伸び、中程で軽く屈曲、緩やかに立ち上がる。105は口縁端部が軽く外反し、内外面に灰釉を施すものである。106・107は皿の底部である。いずれも削り出し高台で、体部に鉄釉を施す。108は口縁部が屈曲して直立し、口縁中央からやや外反する向付の鉢形態で、削り出し高台を持つ。登窯期のものである。体部内外面に鉄釉を施すものである。109は小杯である。口径6.4cmで、内外面に鉄釉を施し、底部は糸切りの平底で無釉である。110～113は壺である。110は口径9.6cmで、内外面に鉄釉を施す。111・112は、内外面に鉄釉を施す。113は小壺で鉄釉を施す。114～116は擂鉢で、全面に鉄釉が施される。114は口縁の縁帯が短く折れる。115は口縁の縁帯が外方へ出ない。116は底部破片で、内面に卸目を施す。

唐津（第286図117～120、図版148）

117は楕である。灰白色の胎土に黄色味を帯びた透明釉を施す、いわゆる京焼風唐津で、17世紀後半から18世紀初頭のものである。118・119は皿の口縁部で、灰釉を施すものである。118は体部中程で軽く屈曲、外反して外側に伸びる。119は体部から口縁部にかけて緩やかに斜め上方に伸びる。120は小杯である。底部は糸切りの平底で無釉である。16世紀末から17世紀前半のものである。

## 伊万里（第286図121～129、図版148）

121は仏壇器である。外面に白磁釉を施す。口クロ成形で、底部は削り出す。高台内は無釉で17世紀中頃のものである。122～124は陶胎染付の碗である。122は高台内側が無釉で、17世紀中頃のものである。123は全面に透明釉を施し、コンニャク印判で松の文様を施す。18世紀前半のものである。124は全面に透明釉を施す。18世紀前半のものである。125は碗である。全面に透明釉を施し、コンニャク印判で文様を施す。126は碗の口縁～体部片で、外面に一重網目文を施すものである。17世紀半ば以降のものである。127は小碗で、外面に染付を施す。128は碗の底部片で、全体に透明釉を施すものである。129は陶胎染付の皿である。見込みは蛇の目釉剥ぎし、重ね焼き痕が残る。高台豊付と高台内は無釉である。17世紀後半から18世紀前半のものである。

## 陶器（第285図101）

101は、産地不明陶器である。口縁部がやや外反する天目茶碗で、口径は11.5cmに復元される。

## (2) 木製品（第286図130～132、図版154）

130は曲物底板。材質はスギで、側面の2箇所に木釘を残す。131は漆器の蓋である。材質はブナで、木取りはヨコ木（柾目）取りである。口縁部は欠損する。内面は赤色（ベンガラ）漆で、外面は黒色系漆に、赤色塗絵による家紋意匠が対面に施される。鉢部分は外面から穿孔される。下地は炭粉洗下地である。時期は18世紀前後が考えられる<sup>注12・13</sup>。132は片面赤色漆、片面露胎の円盤状の板材だが器種は不明。木胎は針葉樹（アスナロ）の柾目板。赤色面は十分木地固めされた木胎の上にベンガラ漆が塗られる。放射性炭素年代測定による時期は15世紀である<sup>注12・13</sup>。（朝田 要・泉 英樹）

## (3) 石製品（第286図133～135、図版155）

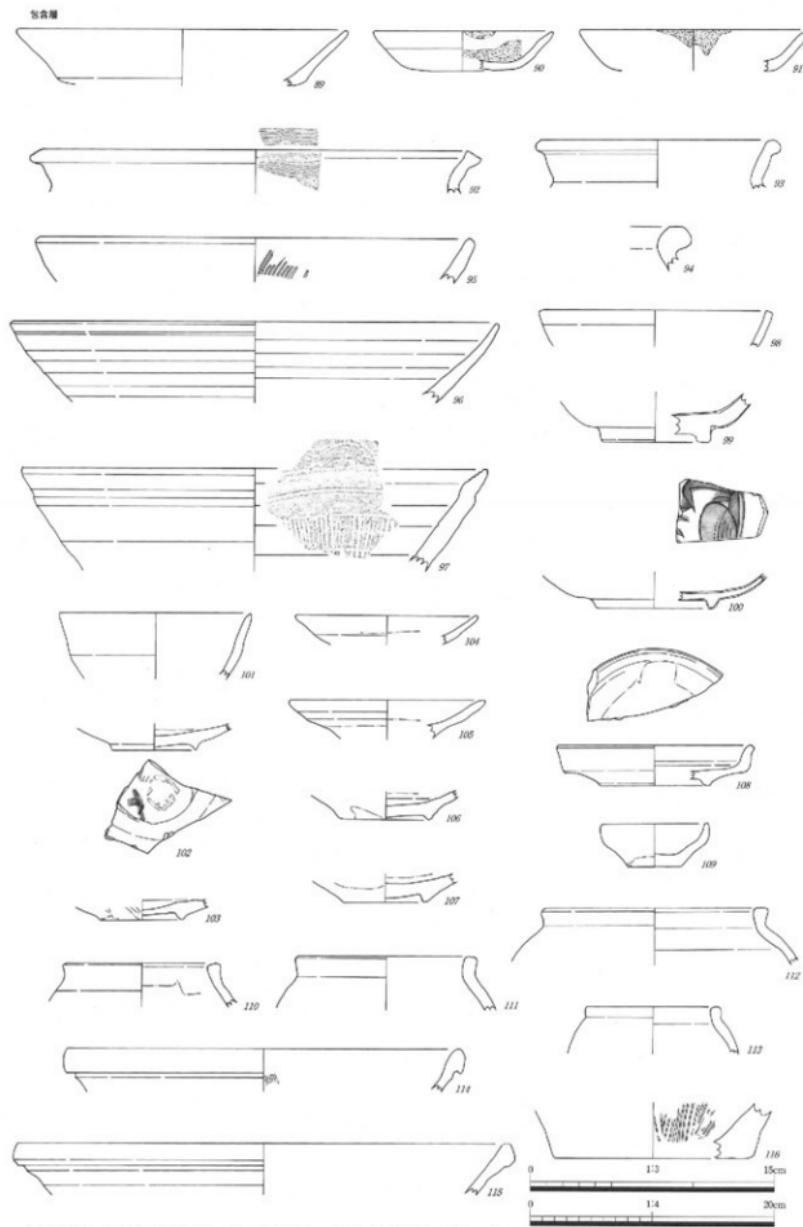
133は蛇紋岩製の磨製石斧である。134は砂岩製砥石である。破損した1面を除く他の5面全てが砥面であった。135は滑石製石鍋の体部片である。外面全体にススが付着していることから、実際に石鍋として使用された可能性が高い。また調整痕や擦切痕などの再加工を示す痕跡があることから温石に転用されたと考えられる。このほかに図示していないが、花崗岩製の叩石1点が出土している。

## (4) 金属製品（第286図136～140、図版156）

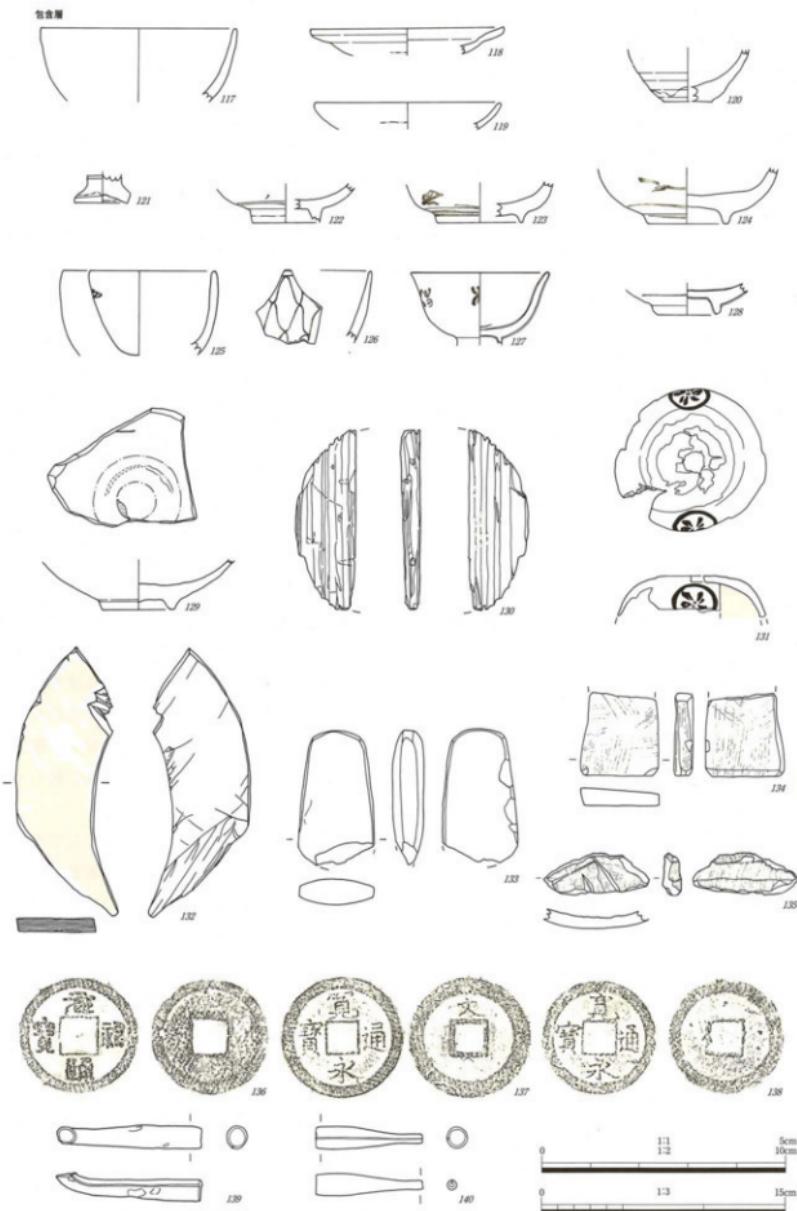
136は元祐通寶である。北宋錢で、初鑄は1086年（元祐元）である。中世に模鋳される。137・138は寛永通寶で元禄10年（1697年）以降に鑄造された新寛永である。139・140は雁首と吸口の間を羅字で繋ぐ羅字煙管。いずれも銅製で、139は雁首、140は吸口である。139の火皿部分は出土していない。油返しの湾曲などから139は19世紀、補強帯の有無などから140は18世紀後半～20世紀のものと考える。このほかに図示していないが、踏鉄が1点、鉄釘1点が出土している。（朝田 要）

注12 第二分冊 自然科学分析 漆器文化財科学研究所 「大野江遺跡出土器物の科学分析」

注13 第一分冊 自然科学分析 株式会社加藤考古研究所 「大野江遺跡出土木製品の放射性炭素年代測定」



第285図 大野江瀬遺跡 遺物実測図 土器・陶磁器 (89~91・99~116 1/3, 92~98 1/4)  
包含層



第286図 大野江洞遺跡 遺物実測図 陶磁器・木製品・石製品・金属製品 (136~138 1/1, 132·139·140 1/2, 117~131·133~135 1/3)  
包含層

## 4 まとめ

大野江瀬遺跡で検出した主な遺構は、弥生時代の自然流路および中世後半～近世の溜池と溝・道路状遺構であり、以下では弥生時代の遺構と中近世の遺構を分けて述べる。

弥生時代後期～終末期、水勢の強い自然流路 S D501が当調査区を東西方向に流れており、上流域には農耕を営む集落が存在したと考えられる。その縁辺部であった当遺跡には集落に直接関係する遺構は存在しないが、S D501下層からは当時の土器や、農具・建築部材を含む多くの木製品がまとまって出土した。そのうち比較的早い時期に S D501は土砂の堆積によって水の流れが阻害され、恒常的な水の流れのない谷状地となり、そこに粘土・植物遺体が混じる粘質土がゆっくりと堆積したと推定できる。古墳時代から中世前半までの間、谷状地であった S D501とその周辺は低湿地や沼地であり、調査区内には集落は存在しなかった。中世後半には S D501の大部分が埋没し、若干低い窪地状の地形ではあるものの比較的乾燥した平地となった。近世以降になると、微低地状であった S D501とその周辺は完全に埋没したと考えられる。

中世から近世にかけての主な遺構は溜池や溝などであり、同様の遺構が確認されている近隣の遺跡には、当遺跡の南西方向に約 1 km離れた中尾山裾部に位置する中尾新保谷内遺跡がある。中尾新保谷内遺跡の調査では、主に12世紀後半～14世紀初頭を中心とした集落跡と15～16世紀および近世の溝・溜池等が確認されており、その調査結果から中世前半には居住域であり、中世後半に耕地化がすすんだと考えられている。当遺跡でも中世後半には耕地化が開始され、中世後半から近世の間に耕作で利用する溜池や溝などが開削されたと考えられる。ただ調査区内に明確な集落の存在を示す遺構がないこと、溜池などの遺構から出土した遺物の質量が共に乏しいことなどから個々の遺構について明確な時期を述べることは難しい。そのため当遺跡では遺構出土遺物と併せ、植物遺体の自然化学分析結果や埋土の種類・堆積状況の相互比較から、当調査区の主要な遺構である溜池とそれに連結する溝を中心に、遺構の時期を15世紀後半～16世紀前半と16世紀後半以降の 2 つのグループに大別した。ただ大規模な遺構である溜池は、実際に長期間使用されたもの以外でも、廃棄された後も開口した状態や窪地の状態で残った溜池跡に後世の遺物が混入することで、実際に使用された期間より存続期間が長く推定される可能性が指摘されている。

もともと標高の低い丘陵性山地と小平野からなり大河川が存在しない氷見地方は干害対策としての溜池が卓越し、昭和25年の調査では3,274面の溜池が存在し、昭和33年の調査では氷見の水需要の約27%が溜池に依存していることが確認されている。また、昭和35年に行われた奈良県における溜池築造年代の調査では、近世（1603～1867）に築造された溜池数が築造年代の判明する溜池総数の約81%を占め、地域は異なるものの 8 割以上がこの時期に集中していることは、近世が溜池の成立とその管理・水利慣行に一時期を画する時代であったことを示している。この背景には技術力の向上とともに、以前に比べ圧倒的に安定した集権的統一政権の成立により個々の幕藩領主による新田開発と水利施設の整備などの諸政策がより長期的・広域的に実行することが可能になったことがあると考えられる。

当遺跡内の溜池の数をみてみると、A 地区で13面、B 地区で 6 面、C 地区で 6 面、計25面の溜池を検出した。また、実際にはそれ以上の溜池が存在した可能性もある。たとえば B 1・B 2・C 地区内の自然流路 S D501と複数の溝が複雑に切り合っている遺構群の土層観察結果からは、1 つの遺構として検出・掘削した遺構のなかに溜池など異なる遺構の特徴が混在しているものが確認でき、完掘後の平面的な観察結果からも別の遺構とする方が調査結果との整合性が高いものもあったことが挙げら

れる。

次に構造面をみてみると、近世以前に平野に開削された溜池は、掘削時に生じる土砂を利用した土壌堤と呼ばれる築堤を行うことで貯水量の増大と排土の処理を同時にに行うことが多いが、地山が砂質土である当調査区では築堤は行われておらず、そのため溜池の体積がそのまま貯水量に直結していると推定できる。個々の溜池の規模は主に3つに大別され、開削時の貯水量は大規模なもので約30~36トン、中規模のもので約16~20トン、小規模なもので約8~12トンであり、当遺跡で検出した溜池の総貯水量は約380トンである。ただ前述したように25面以上の溜池が存在した可能性があること、同時期に存続した溜池数に変遷があること、調査区内の溜池のみの合計であることなどを考慮に入れる必要があることから、この総貯水量は一つの目安である。次に貯水の方法とその水源だが、当調査区の地山は砂質土で掘削が容易であり湧水点も浅いことから溜池のほとんどは湧水点に達しており、その水量が豊富であること併せ、開削時の貯水は湧水と天水に依存していたと推定できる。しかし溜池は長期間使用すると湧水層の上に透水性の低い植物遺体の混じる粘質土が堆積してしまい、湧水による貯水が難しくなる問題点がある。その場合、溜池に築堤を行っておらず地山が崩れやすい性質である当地域では、湧水点まで浚渫して再利用するよりも水源まで溝を掘り導水するか、新たに溜池を開削し短い溝で連結した方が合理的である。このこともあり、再掘削が行われた可能性がある溜池はSG722のみであり、他の大部分の溜池は導水のための長い溝で水源とつながるか、複数の時期差のある溜池が短い溝で連結していたと考えられる。当遺跡では25面の溜池のうち20面が溝と連結していたと推測でき、残りの5つのうち3つは調査区外に拡がるものである。また、溜池の平面形は、梢円を呈するものが多数を占める。長い溝と接続する溜池のほとんどは長径の方向と溝の接続方向が一致しており、長径の方向と水源との位置関係には相関性があると推定できる。開削当初は豊富な湧水による貯水が望める場合でも、溜池の開削が労働力の集約が必要な公共性の高い大規模な土木事業であること、個々の溜池に湧水や天水で貯水できる量や時期が限定されるために農業分野の水需要に対する供給源としても水量が不十分であると考えられることなどから、ほとんどの溜池は谷頭を堰き止めた大型の溜池や河川などの水源と用水でつながり導水することで中・長期的に安定した貯水量の維持を図っている。当地域でも同様に、調査区外に延びる長い溝で水源と連結することで安定した貯水量を維持した溜池は、蓄えた水を周辺地域の耕地に分配する水瓶としての役割を果たしていたと考えられる。

最後に溜池の存続時期だが、15世紀後半~16世紀前半のグループは、中尾新保谷内遺跡と同様、莊園公領制の解体と国人領主の権限強化に伴って領主が灌漑の統制・管理を目的として開削させたと考えられる。SG400・403・405・407の連結する溜池群が代表的なものであり、比較的小規模で、長径を南北方向に持ち、導水のための長い溝と連結せず貯水方法が湧水と天水のみであると推定できることなどが特徴で、その大部分が17世紀中頃までに埋没した。16世紀後半以降のグループは、天正13年(1585)の加賀藩前田家による氷見地方の支配開始と検地・新田開発の奨励、新田開発に伴って開削された溜池や、元和6年(1620)の大野用水開削、その後に谷頭に築造された大規模な溜池である谷内池・茅戸池などの新たな水利施設の整備などに伴って開削されたと考えられる溜池で、比較的大規模である、導水のための溝で水源と連結していたと推定できることなどが特徴であり、これらの溜池群は江戸時代を通して連絡と開削・維持運営されたと考えられるだろう。

(朝田 要)

## 参考文献

- 石川県小松市教育委員会 2003 「八日市地方遺跡Ⅰ－小松駅東土地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書－」
- 財団法人富山県文化振興財団 2006 「下老子笹川遺跡 発掘調査報告」
- 財団法人鳥取県教育文化財団 2000 「鳥取県気高郡青谷町 青谷上寺地遺跡」 1～4
- 奈良国立文化財研究所 1993 史料第36冊 「木器集成図録 近畿原始縄（解説）」
- 古泉弘 2001 「煙管」『因説江戸考古学研究辞典』江戸遺跡研究会 柏書房
- 氷見市史編纂委員会 1963 『氷見市史』
- 森浩一編 1978 『日本古代文化の探求 池』社会思想社
- 越前慎子 2004 「氷見地方の漁池漁業遺構－中尾新保谷内遺跡の調査から－」『紀要 富山考古学研究 第7号』財団法人富山県文化振興財団
- 鈴木康之 2006 「滑石製石劍の流通と消費」『鎌倉時代の考古学』高志書院

第37表 大野江洞遺跡 弓生時代 自然流路一覧

遺構	旧遺構番号	規模(m)			出土遺物	特記	挿図番号	写真図版
		幅	深さ					
SD601	B1-SD01	18.00	1.92		赤牛土器(1~16), 土器類, 瓢匙器(17), 珠洞(18), 越中陶器(19), 四下軸(20), 楪子(21~22), 雜材(23~25~35, 37~52~54~57~58), 板材(24~36~38~51), 板柱(55~56), 柱(59), 柱, 圖形木製品(60), 魔杖木製品(61), 植物, 石製品	<SD502・SD504・SD518・SD612・SG707・SG722・SG727・SK544	234~240・278	137
	E2-SD22							
	C-SD01							
	C-SD16							
	C-SD23							
	C-SK24							

第38表 大野江洞遺跡 中近世 潜池一覧

遺構	旧遺構番号	規模(m)			出土遺物	時期	特記	挿図番号	写真図版	
		長さ	幅	深さ						
SG51	A1-SK51	不整	(4.32)	3.80	0.82	土製品	近世	SK17>SG51>SD301・SD302	249	
SG52	A1-SK52	檜円	4.06	3.12	0.60	礫石	近世	>SD10	249	
SG53	A1-SK53	不整	6.16	2.66	0.76	土製器	近世	>SD6・SD301・SD302	249	
SG191	A1-SK191	不整	7.64	5.04	1.20		中世～近世	>SD5	250~251	
SG200	A1-SK200	不整	(15.40)	8.96	0.94	珠洞(62~63), 唐津, 骨	中世～近世	>SD4	250~251	
SG291	A1-SK201	不整	10.44	3.20	0.84	須恵器(64), 珠洞	中世～近世	>SD6	250~251	
SG400	A2-SK100	不整	(6.84)	3.40	0.41	須恵器(65~66), 長器(67)	中世		252~254	
SG403	A2-SK103	檜円	(4.00)	3.32	0.51	漆器(68)	中世	>SD404	252~254	
SG405	A2-SK105	檜円	(8.48)	3.62	0.76	中世土師器(69), 漆器(70)	中世		252~254	
SG407	A2-SK107	檜円	8.62	3.38	0.80		中世	>SD406	252~254	
SG408	A2-SK108	檜円	8.28	3.32	0.80		中世～近世		252~255	
SG409	A2-SK109	不整	13.72	(5.32)	0.60	土師器, 極中漚戸(71), 唐津(72), 伊万里(73~74), 漆器(75), 円形板(76), 柄柱, 板材, 植穴, 條管(77)	近世		252~255・256	138
SG410	A2-SK110	不整	(5.68)	5.08	0.76	弥生土器, 須恵器, 不明陶器	近世		252~255・256	138
SG507	B1-SK07	檜円	14.60	3.80	1.00		中世～近世	>SD508	257	
SG517	B1-SK17	檜円	14.70	4.00	1.00		中世～近世	>SD518・SD531	258	
SG528	B1-SK28	不整	5.30	(4.80)	1.26	須恵器, 瓢洞, 近代磁器	中世～近世		258	
SG545	B1-SK45	檜円	9.50	4.00	0.91		中世～近世	>SD503	271~272	
SG613	B2-SK13	檜円	10.80	4.00	0.88		中世～近世	>SD612	259~274	
SG620	B2-SK20	不整	6.29	(4.16)	1.16		中世～近世	SD601・SC620・SD602・SD612	274~275	
SG707	C-SK07	檜円	8.60	3.20	0.70	砥石	中世～近世	>SD501	260~261	
SG713	C-SK13	檜円	8.80	(3.50)	0.80		中世～近世		260~261	
SG714	C-SK14	檜円	8.30	2.80	0.57		中世～近世		260~261	
SG722	C-SK22	檜円	12.90	4.90	1.10	珠洞	中世～近世	SK726>SG722>SD501・SD612	262~263・274	
SG727	C-SK27	檜円	5.80	3.70	0.90		中世～近世	SG728>SG727>SD501・SK736	264~265	
SG728	C-SK28	不整	(8.50)	5.00	0.98	珠洞(78)	中世～近世	SK736>SG728>SD738・SG727	264~265・274	

第39表 大野江瀬遺跡 中近世 満一覧

遺物	旧邊機番号	面積(m) 幅 高さ	出土遺物	時期	特記	掲載番号	写真図版	
SD4	A1-SD04	1.91	0.28	須恵器	中世～近世	<SG200	266・267	140
SD5	A1-SD05	1.96	0.38	土師器、越中瀬戸、石鏡(SI)	中世～近世	<SG53・SG191・SG201	266・267	140
SD10	A1-SD10 A2-SD11	1.16	0.15		中世～近世	<SG32	249	
SD301	A2-SD01	2.33	0.40	須恵器(S2)、土師器、越中瀬戸(S3)、板材	近世	<SG31・SG63・SK12・SK15・SK18	268・279	140
SD302	A2-SD02	2.20	0.24		近世	<SG54・SG63・SK16・SK305	268	140
SD303	A2-SD03	0.84	0.16		近世	>SD350	268	140
SD304	A2-SD04	1.21	0.18		近世		268	140
SD308	A2-SD08	0.50	0.04		中世～近世	<SK310	269	140
SD309	A2-SD09	0.70	0.08		中世～近世	<SD350	269	140
SD350	A2-SD120	0.94	0.22		中世～近世	SD303>SD350>SD309	268・270	140
SD380	A2-SD80	0.73	0.27		中世～近世	<SK381	270	140
SD402	A2-SD102	0.91	0.20		中世		252～254	138
SD404	A2-SD104	0.87	0.14		中世	<SG403	252～254	138
SD406	A2-SD106	1.80	0.20		中世	<SG407	252・253	138
SD502	B1-SD02	6.10	0.92	土師器、須恵器、伊万里(S4)	中世～近世	>SD501	236・271・272	141
SD503	B1-SD03	(1.80)	0.52	土師器	中世～近世	<SG545	271・272	
SD504	B1-SD04	3.20	1.00	施生土器、須恵器(S5)、珠陶(S6)、種実	中世～近世	>SD501・SD612	233・271・272	
SD508	B1-SD08	0.70	0.18		中世～近世	<SG507	257・273	
SD518	B1-SD18	0.90	0.28		中世～近世	SG547>SD518>SD501・SK525	273	
SD631	B1-SD31	1.20	0.28		中世～近世	SG517>SD531>SD537・SD543	273	
SD637	B1-SD37	1.24	0.26		中世～近世	<SD531	273	
SD643	B1-SD43	0.33	0.10		中世～近世	<SD531	273	
SD601	B2-SD01 C-SD40	5.66	0.88	須恵器、珠陶(S7)、瀬戸、越中瀬戸、青津、伊万里。近代磁器、陶製人形、不明陶器、近代文様、加工木、鉢織把手?(S8)、縁鉢、種実	近代	>SG620・SK625		141
SD602	B2-SD02 C-SD39	3.88	0.80	土師器、近代陶磁器、種実	中世～近世	SK609>SD602>SD612・SG620	264・274・275・281	141
SD612	B2-SD12 C-SD25	5.16	1.22	土師器、珠陶	中世～近世	SD601・SD602・SD614・SG613・SG620・SG722>SD612>SD601・SK615	262・263・274～278	141
SD614	B2-SD14	0.60	0.20		中世～近世	>SD612	274・277・278	
SD738	C-SD38	1.30	0.27	須恵器	中世～近世	<SG728・SK737	264・265・282	

第40表 大野江遺跡 中近世 土坑一覧

遺構	II虚構番号	平面形	規模(m)			出土遺物	時期	特記	鉢器番号	写真図版
			長さ	幅	深さ					
SK2	A1-SK02	楕円	1.54	0.84	0.40		中世～近世		279	
SK3	A1-SK03	楕円	1.00	0.70	0.22		中世～近世		279	
SK12	A1-SK12	楕円	0.96	0.66	0.11		近世	>SD301	268・279	
SK15	A1-SK15	不整	2.34	0.94	0.24	土器部	近世	>SD301・SK16	279	
SK16	A1-SK16	不整	2.10	1.00	0.38	土器部	近世	SK15>SK16>SD302	279	
SK17	A1-SK17	楕円	1.42	1.00	0.37	土器部	近世	>SG51	279	
SK18	A1-SK18	楕円	0.74	0.44	0.07		近世	>SD301	279	
SK33	A1-SK33	円	0.26	0.24	0.06	吉津	中世～近世		279	
SK34	A1-SK34	円	0.34	0.26	0.06		中世～近世		279	
SK39	A1-SK39	円	0.56	0.54	0.12		中世～近世		279	
SK40	A1-SK40	円	0.56	0.50	0.30	伊万里	中世～近世		279	
SK58	A1-SK58	不整	1.32	0.50	0.17		中世～近世		279	
SK65	A1-SK65	円	0.28	0.28	0.08	青磁	中世～近世		279	
SK74	A1-SK74	楕円	1.64	1.64	0.28	土器部、越中湖(79)	中世～近世	>SK132	280	
SK132	A1-SK132	不整	4.42	1.12	0.10		中世～近世	<SK74・SK133	280	
SK192	A1-SK192	不整	2.48	1.14	0.24	吉津	中世～近世		280	
SK193	A1-SK193	不整	1.76	1.38	0.10		中世～近世	>SK132	280	
SK305	A2-SK05	円	0.98	0.78	0.32		近世	>SD302	280	
SK310	A2-SK10	不整	0.76	0.40	0.06		中世～近世	>SD308	280	
SK319	A2-SK19	楕円	1.44	0.86	0.16		中世～近世		280	
SK332	A2-SK32	円	0.90	0.80	0.35		中世～近世		280	
SK342	A2-SK42	不整	1.18	0.78	0.14		中世～近世		280	
SK352	A2-SK32	楕円	1.96	1.28	0.13		中世～近世		280	
SK381	A2-SK81	楕円	0.84	0.62	0.26		中世～近世	>SD380	270	
SK512	B1-SK12	楕円	0.80	0.64	0.20	越中湖(80)	中世～近世		281	
SK525	B1-SK25	不整	3.44	3.20	0.22		中世～近世	<SD518	273	
SK544	B1-SK44	楕円	1.72	1.44	0.65		中世～近世	>SD601		
SK609	B2-SK09	楕円	1.92	1.58	0.55	越中湖(80)	中世～近世	>SD602	281	141
SK611	B2-SK11	楕円	2.36	1.56	0.80		中世～近世		281	
SK615	B2-SK15	楕円	0.60	0.44	0.25		中世～近世	<SD612	274	
SK627	B2-SK27	楕円	2.30	1.14	1.24		中世～近世		281	141
SK709	C-SK09	円	1.00	1.00	0.20		中世～近世		282	
SK726	C-SK26	不整	2.84	1.46	0.09		中世～近世	>SG722	262・263	
SK729	C-SK29	楕円	0.72	0.56	0.26		中世～近世		282	
SK735	C-SK35	不整	6.90	(3.86)	0.60	馬牛土器、須志器	不明		283	
SK736	C-SK36	楕円	4.00	1.80	0.67	珠満	中世～近世	SG727>SK736>SG728	264・265	139
SK737	C-SK37	円	0.60	0.50	0.16		中世～近世	>SD738	282	

第41表 大野江淵遺跡 土器・陶磁器一覧(1)

番号	測量	分類	形態	主产地	焼物	特徴	口径(cm)	底径(cm)	時間	鉢・色刷	鉢・色刷	鉢・色刷	鉢・色刷
241 /	143	S0501	X78/81 斜 面	生土 器	生土 器	直	12.6	—	10/7R8.4	浅黄色	赤色生土器・青白	—	—
241 2	—	S0501	X71/66 黄 面	生土 器	生土 器	直	12.0	—	10/7R7.2	浅黄色	赤色生土器・青白	—	—
241 3	142	S0501	X37/61	生土 器	生土 器	直	—	—	23/7R7.8	白色	赤色生土器・青白	—	—
241 4	142	S0501	X70/64	生土 器	生土 器	直	—	—	23/7R7.8	白色	赤色生土器・青白	—	—
241 5	—	S0501	X80/70	生土 器	生土 器	直	—	—	23/7R7.8	白色	赤色生土器・青白	—	—
241 6	143	S0501	X27/70	生土 器	生土 器	直	—	—	23/7R7.3	浅黄色	赤色生土器・青白	—	—
241 7	143	S0501	X81/66 黄 面	生土 器	生土 器	直	15.2	—	10/7R8.2	浅黄色	赤色生土器・青白	—	—
241 8	142	S0501	X70/63	生土 器	生土 器	直	—	—	10/7R7.3	浅黄色	赤色生土器・青白	—	—
241 9	142	S0501	X37/61	生土 器	生土 器	直	—	—	10/7R7.3	浅黄色	赤色生土器・青白	—	—
241 10	143	S0501	X85/87 黄 面	生土 器	生土 器	直	—	—	10/7R6.6	白色	赤色生土器・青白	—	—
241 11	142	S0501	X73/79	生土 器	生土 器	直	—	—	10/7R6.6	白色	赤色生土器・青白	—	—
241 12	143	S0501	X37/66	生土 器	生土 器	直	—	—	10/7R6.6	白色	赤色生土器・青白	—	—
241 13	143	S0501	X73/69 1面	生土 器	生土 器	直	14.0	6.6	23/8R7.2	白色	赤色生土器・青白	—	—
241 14	143	S0501	X71/67	生土 器	生土 器	直	—	—	10/7R7.3	浅黄色	赤色生土器・青白	—	—
241 15	—	S0501	X33/62	生土 器	生土 器	直	—	—	10/7R7.3	浅黄色	赤色生土器・青白	—	—
241 16	143	S0501	X76/70 黄 面	生土 器	生土 器	直	—	—	10/7R6.6	白色	赤色生土器・青白	—	—
241 17	144	S0501	X68/65	深 埋	有孔 器	直	7.9	—	10/7R9.0	白色	—	—	—
241 18	—	S0501	X73/66	深 埋	有孔 器	直	—	—	10/7R9.0	白色	—	—	—
241 19	—	S0501	X73/64	深 埋	有孔 器	直	—	—	10/7R9.4	白色	赤色深埋器(黒地)・青白	—	—
285 62	145	S28/20	深 埋	深 埋	深 埋	直	—	—	10/7R9.4	白色	赤色深埋器(黒地)・青白	—	—
285 63	145	S28/20	X10/13	深 埋	深 埋	直	—	—	10/7R9.4	白色	赤色深埋器(黒地)・青白	—	—
285 64	144	S28/21	X10/28	深 埋	深 埋	直	—	—	10/7R9.4	白色	赤色深埋器(黒地)・青白	—	—
285 65	144	S28/20	X10/26 上面	深 埋	深 埋	直	—	—	10/7R9.4	白色	赤色深埋器(黒地)・青白	—	—
285 66	144	S28/20	X15/62 上面	深 埋	深 埋	直	—	—	10/7R9.4	白色	赤色深埋器(黒地)・青白	—	—
285 67	146	S24/25	X74/65 1面	小口土器	直	9.1	1.9	—	10/7R9.4~10C	白色	—	—	—
285 68	146	S24/25	X74/66 1面	小口土器	直	10.0	—	—	10/7R9.4~10C	白色	—	—	—
285 69	147	S24/25	X38/66 上面	小口土器	直	—	—	—	10/7R9.4~10C	白色	—	—	—
285 70	147	S24/25	X39/66 壁 面	小口土器	直	—	—	—	10/7R9.4~10C	白色	—	—	—
285 71	147	S24/25	X38/66 上面	小口土器	直	—	—	—	10/7R9.4~10C	白色	—	—	—
285 72	148	S24/25	X39/66 壁 面	小口土器	直	—	—	—	10/7R9.4~10C	白色	—	—	—
285 73	148	S24/25	X38/66 上面	小口土器	直	—	—	—	10/7R9.4~10C	白色	—	—	—
285 74	148	S24/25	X38/66 壁 面	小口土器	直	—	—	—	10/7R9.4~10C	白色	—	—	—
285 75	147	S24/25	X32/76 前半	小口	直	—	—	—	10/7R9.4~10C	白色	—	—	—
285 76	147	S24/25	X30/75 前半	小口	直	—	—	—	10/7R9.4~10C	白色	—	—	—
284 80	147	S24/25	X38/66 壁 面	小口土器	直	7.4	—	—	10/7R9.4~10C	白色	—	—	—
284 82	144	S24/25	X31/73	深 埋	深 埋	直	—	—	10/7R9.4~10C	白色	—	—	—
284 83	144	S24/25	X33/73	地 面	地 面	直	12.0	—	10/7R9.4~10C	白色	—	—	—
284 85	144	S24/25	X33/73	地 面	地 面	直	—	—	10/7R9.4~10C	白色	—	—	—

第41表 大野江淵遺跡 土器・陶磁器一覧(2)

第41表 大野江遺跡 土器・陶磁器一覧(3)

番号	通称	石器	縄繩	器種	目録	寸法(cm)	裏側	時期	出土の状況	物色調	地色	備考
286	L27	石器	縄繩	伊万里	伝新作	1.1頭	背面	3.2	17℃中弱	N8.0	灰白色	2.5GYR/1 長白色(外面)
286	L22			伊万里	鏡			4.0	17℃中弱	7.5YR 4.1	灰白色	同上(内面) 同上(外面) 5.0YR 6.6 <灰白色(外)
286	L27	148	X55721 1頭	伊万里	鏡			5.2	18℃弱	N8.0	灰白色	同上(外面) 同上(内面) 5.0YR 6.6 <灰白色(外)
286	L27	148	X55721 1頭	伊万里	鏡			4.9	18℃強	10YR6.1	鐵灰色	同上(外面) 同上(内面) 5.0YR 4.4 <灰白色(外)
286	L27	148	X59Y41 1頭	伊万里	鏡			5.2	18℃強	10YR7.2	灰白色	同上(外面) 同上(内面) 7.5R 3.3 青灰色、コニニヤウ(外)
286	L27	148	X44570 1頭	伊万里	鏡			17	17℃中弱	10Y8.1	灰白色	同上(外面) 同上(内面) 7.5R 3.3 青灰色
286	L27		X57Y83 1頭	伊万里	鏡			5.4		N8.0	灰白色	同上(外面) 同上(内面) 7.5R 3.4 <灰白色
286	L28		X56Y80 1頭	伊万里	鏡			4.1	18℃強	2.5GYR/1	青灰色	2.5GYR/3 黄褐色
286	L29	148	X57Y63 1頭	伊万里	鏡			4.1	18℃強	2.5GYR/1	青灰色	2.5GYR/3 <灰白色
286	L29	148	X43Y66 1頭	伊万里	鏡			4.4	17℃強(=18℃弱)	N8.0	灰白色	同上(外面) 同上(内面) 5.0YR 2.2 <灰白色(外)
										7.5YR 1	灰白色	同上(外面) 同上(内面) 5.0YR 2.2 <灰白色(内)

第42表 大野江洞遺跡 木製品一覧

件番	遺物	写真図版	遺構	出土地点	種類	計量(cm)			材質	備考
						長さ	幅	厚さ		
242	26	149	SD501	X70Y64	田下駄	29.8	18.0	2.3	スギ	有孔(4箇所)
242	21	149	SD501	X73Y69	梯子	84.6	8.2	6.4	スギ	
242	22	149	SD501	X70Y165	梯子	(121.8)	10.8	10.6	スギ	放射性炭素年代No58
243	23	150	SD501	X73Y70 №2	板材	(76.2)	3.6	2.0		組み合せ木製品
243	24	150	SD501	X73Y70 №3	板材	(20.3)	4.3	1.1		組み合せ木製品
243	25	150	SD501	X73Y70 №6	板材	(45.8)	2.1	1.4		組み合せ木製品
243	26		SD501	X73Y70 №4	板材	79.4	2.2	1.4		組み合せ木製品
243	27	150	SD501	X73Y70 №5	板材	(79.6)	2.2	2.0		組み合せ木製品
243	28	150	SD501	X73Y70 №7	板材	85.2	2.3	2.1		組み合せ木製品
243	29	150	SD501	X73Y70 №9	板材	(42.8)	1.8	1.4		組み合せ木製品
243	30	150	SD501	X73Y70 №8	板材	(35.1)	1.5	1.3		組み合せ木製品
243	31		SD501	X73Y70 №8	板材	(83.3)	1.8	1.8		組み合せ木製品
243	32		SD501	X73Y70 №10	板材	81.6	2.2	1.8		組み合せ木製品
244	33		SD501	X73Y70 №11	板材	80.6	2.4	1.8	スギ	組み合せ木製品
244	34	150	SD501	X73Y70 №12	板材	(83.6)	2.0	1.2		組み合せ木製品
244	35		SD501	X73Y70 №13	板材	80.9	2.2	1.0		組み合せ木製品
244	36		SD501	X73Y70	板材	(36.2)	5.8	1.5	スギ	組み合せ木製品
244	37	130	SD501	X73Y70 №17	板材	(28.0)	3.8	1.4	スギ	
244	38	150	SD501	X70Y63	板材	(87.8)	18.0	2.0	スギ	
244	39	150	SD501	No19	板材	147.4	12.6	2.6	スギ	有孔(2箇所)
245	40	151	SD501	No25	板材	56.2	11.2	2.6	スギ	有孔
245	41	151	SD501	X70Y66	板材	(57.0)	13.2	2.6	スギ	有孔(2箇所)
245	42		SD501	X72Y166 最下層	板材	31.5	3.7	0.7	スギ	有孔
245	43	151	SD501	X85Y88 下層	板材	41.2	6.2	1.2	スギ	有孔
245	44		SD501	No21	板材	31.3	4.9	0.8	スギ	有孔
245	45		SD501	最下層 No11(No10の下)	板材	(88.4)	13.2	2.2		
246	46	151	SD501	X85Y88 最下層 No3	板材	124.2	18.6	2.4	スギ	有孔(4箇所) 放射性炭素年代No60
246	47	152	SD501	X74Y70 №1	板材	(81.2)	16.6	1.6	スギ	有孔(2箇所)
246	48		SD501	X70Y62	板材	(61.5)	5.8	1.4		
246	49		SD501	X78Y73	板材	(58.3)	13.4	2.0		手加工痕明顯
247	50	152	SD501	No22	板材	(89.5)	7.1	1.8	スギ	
247	51	152	SD501	No59	板材	88.8	8.4	2.4	スギ	
247	52		SD501	X74Y68 最下層	板材	(96.8)	5.6	3.2		
247	53		SD501	X74Y68 最下層	板材	(97.2)	5.5	2.7		
247	54		SD501	X73Y70 №15	板材	68.4	4.0	2.0		
247	55	150	SD501	X72Y70 №16	板材	(55.2)	7.0	2.4	スギ	
247	56	150	SD501	X73Y70 №14	板材	(65.9)	7.3	2.6	スギ	
247	57	152	SD501	No31	板材	(58.6)	3.8	2.6	スギ	有孔
247	58		SD501	X70Y68	板材	(24.8)	2.4	2.4	スギ	木釘あり
248	59	152	SD501	No54	板材	118.4	6.6	4.2	スギ	有孔(2箇所)
248	60	153	SD501	X71Y65	圓筒形木製品	(17.2)	7.9	1.0	スギ	
248	61	153	SD501	X71Y65 下層	圓筒形木製品	(8.3)	4.7	1.3		
283	67		SG400	下層 №1	漆器椀			(底径)7.4		内面赤色漆 外面黒色漆 赤色漆塗 漆器分析No3
283	68	154	SG403	X51Y60 下層 №1	漆器椀				ブナ属	内面赤色漆 外面黒色漆 漆器分析No3
283	70		SG405	下層 №2	漆器椀	14.1			ブナ属	内面赤色漆 外面黒色漆 漆器分析No4 放射性炭素年代No52
283	75		SG409	X38Y69 下層	漆器椀					内面赤色漆 外面黒色漆
283	76	151	SG409	X38Y69 上層	円形板	4.1	(2.9)	0.6	スギ	目釘あり 放射性炭素年代No53
286	130			X15Y40 I層	曲物底盤	(11.0)	(3.6)	1.2	スギ	内面赤色漆 外面黒色漆 曲物底盤 漆器分析No1 放射性炭素年代No51
286	131	154		X10Y31 II層(南側)	漆器(蓋)				ブナ属	内面赤色漆 外面黒色漆 漆器分析No1 放射性炭素年代No51
286	132	154		X95Y84 I層	板材	(11.0)	3.3	0.6	アヌラ	片面赤色漆 漆器分析No5 放射性炭素年代No59

第43表 大野江淵遺跡 石製品一覧

番号	遺物	写真図版	遺構	出土地点	種類	法量(cm・g)				材質	備考
						長さ	幅	厚さ	重さ		
284	SI	155	SD6	X35Y51	石鏡	(3.1)	(6.1)	1.3	40.41	漆石	
286	I37	155		X73Y57	磨製石斧	(8.5)	4.6	2.0	105.81	蛇紋岩	
286	I34	155		X81Y60	砾石	(6.1)	4.85	1.15	39.04	砂岩	衝人物(雲母・角尖石?)多い
286	I35	155		X88Y90 I層	石鏡	(2.6)	(6.4)	0.6	19.05	漆石	

第44表 大野江淵遺跡 金属製品一覧

番号	遺物	写真図版	遺構	出土地点	種類	法量(cm・g)				備考	
						長さ	幅	厚さ	重さ		
283	77	156	SG409	X38Y68 上層	錫管(吸口)	(5.7)	(径)0.9	0.05	2.56		
284	88	156	SD601	X100Y67	鉄鍋把手?	6.4	7.4	1.6	79.35	電子X線分析	
286	I36			X16Y35 II層上面	鍼(元祈酒甕)	2.4	2.4	0.12	2.74		
286	I37			X74Y56 I層	鍼(寛永通寶)	2.5	2.5	0.12	2.44		
286	I38			X70Y72 I層	鍼(寛永通寶)	2.5	2.5	0.12	1.90		
286	I39	156		X73Y53 I層	錫管(吸首)	6.0	0.9	0.1	7.38		
286	I40	156		X87Y69 I層	錫管(吸L)	4.4	(径)0.9	0.1	4.61		

## 第VII章 結語

中尾茅戸遺跡・中尾新保谷内遺跡・神明北遺跡・大野江瀬遺跡は、能越自動車道高岡北IC～水見IC間の建設に伴い、平成14年度から平成16年度にかけて本調査を実施した遺跡である。4遺跡は水見市域の北半部を流れる上庄川の中・下流域に開けた、上庄谷平野の南縁から中央部に分布している。中尾茅戸遺跡は、荒館丘陵から樹枝状に延びる中尾山を隔ててやや谷奥に位置し、中尾新保谷内遺跡・神明北遺跡は中尾山の丘陵裾から平野部にかけて広がる。大野江瀬遺跡は平野部中央の水見IC付近に位置する。これらの遺跡は平野の中でもかつて湿地帯であった低地部を避け、丘陵裾や台地状の高まりに形成されている。

中尾新保谷内遺跡では、丘陵裾部からわずかながら縄文時代前期の遺物が出土したが、平地部では遺構面より下位の標高4m前後に、縄文時代前期にあたる混貝層を確認し、縄文海進期には遺跡周辺は海水が進入する内湾奥部のような環境であったことが明らかになった。しかし中期の初め頃には低地にトネリコ属などの湿地林が存在したと推定され、徐々に海退が進んだことが窺える。中尾地区周辺の平野部で確認された最も古い時代の遺構は、中尾茅戸遺跡の弥生時代後期の溝であるが、小規模で遺構数は少なく、中尾新保谷内遺跡では磨製石斧等の石器、神明北遺跡では後期の弥生土器がそれぞれ数点出土するにとどまった。続く古墳時代には、中尾茅戸遺跡において自然流路・溝・土坑が検出されたが、集落の中心とはいえない散漫な遺構分布であった。周辺の遺跡の分布をみても、その動態が活発化するのは古代以降と考えられる。

大野江瀬遺跡では、これに先駆けるように弥生時代後期から終末期にかけての遺構と遺物が確認された。検出された遺構は自然河川のみであるが、弥生土器の他、田下駄・梯子・建築部材等の木製品が多数出土し、遺跡からそれほど遠くはない上流域に水田を営む集落が存在したと想定される。出土した種実・草本類から、当時の環境は河道や湿地を開けた草地が存在し、周辺の丘陵地には安定した森林があったと推定され、上庄川中流域には比較的の安定した平野が形成されていたといえる。上庄川沿いに能登羽咋へ向けるルートは弥生時代終末期にまで遡るといわれており、定住生活を営む集落間の交易も行われていたであろう。

9世紀に至っては、中尾地区でも集落の存在が確認される。中尾茅戸遺跡では、掘立柱建物・溝・土坑が検出され、遺跡より更に西側に向かって集落が広がっていると予想される。中尾新保谷内遺跡では、畑・溝・土坑が古代の遺構として確認され、中世とした掘立柱建物のいくつかは古代末期に遡る可能性もある。中尾新保谷内遺跡の西側の丘陵に接する台地上には、平安時代後期の作である金銅宝冠阿弥陀如来座像が出土した泉中尾廃寺跡や、古代末期とされる木造大日如来像を安置する白山神社があり、中尾周辺は古代寺院が所在したとみられるが、今回の調査では、仏教関連のものとして、9世紀頃の黒色土器鉄鉢と3点の灯明具を埋納した土坑等が検出された。寺院との関連は明らかではないが、当時の仏教活動の一端を示すものと考えられる。また、現在の水見市スーパー農道沿いの西側に当たる中尾新保谷内遺跡北東部分と神明北遺跡南西部分は、当時は湿地帯が広がる低地であったとみられるが、微高地となる神明北遺跡北東部分では、南北に40m以上の距離が確認できる溝から8世紀後半～9世紀を中心とする墨書き土器等が出土している。

大野周辺は『和名類聚抄』にみえる射水十郷の一つ、阿努郷の比定地で、東大寺の封戸が設定されている。平安時代中期には、越中權守源家賢の私領阿努庄となり、12世紀中頃には浜間家近衛家領として伝領されている。至徳2年（1385）には阿努庄は二分され、上庄村の上流地方を『阿努上庄』または『上庄』と称し、下流地方を『阿努下庄』または『阿努庄』『下庄』と称するようになった。時代が降り、明治22年の町村制実施の際に阿努下庄の地に『上庄村』が成立することになるが、現在の中尾・大野はこの上庄村に含まれる。阿努庄との直接的な関わりを示す遺物は出土していないが、その時代の遺構として、中尾新保谷内遺跡では、西側の微高地を中心に13世紀～14世紀を主体とする多数の掘立柱建物や井戸・溝・土坑・畑等が検出された。建物の規模や、遺物、一例として鍵等を研いだとみられる砥石が多いことなどから、農村的な様相を呈する一般集落と考えられる。建物は総柱建物が多く、数回の建て替えがなされており、中世前期には安定した居住城であったと考えられる。地盤は砂質であるため、井戸は崩壊しやすかったとみられ、全て木側を用いているにもかかわらず短期間に掘り直されているものもある。しかし、その反面湧水点が高く水が得やすい環境であったともいえよう。

中世後期から近世にかけては、中世前期に居住城であった中尾新保谷内遺跡の西側微高地も耕地化されたことが、多数の溜池の存在に裏付けられる。これらは平地に開削された皿池状の溜池で、楕円形や、更に長大な溝状を呈するものがあり、大野江瀬遺跡でも多数検出されている。文献資料にみられる氷見の溜池建築の記録は、天正年間を初現とする。氷見は天正13年（1585）、加賀藩の支配下となり、天正・慶長年間に検知が行われ、新田開発が奨励された。この頃、藩政下の最初の開拓者、園の高木但馬は十二町潟付近を干拓し、浜地の所々に溜池を作り田畠を造成したという。中尾新保谷内遺跡ではこれらの記録を遡る15世紀後半に、溜池が開削されたと推定される。確認したものはすべて湧水点に達する深度まで掘削されており、水源は湧水と天水であったと考えられる。遺跡内の西側の微高地では、溝で溜池と溜池を結び、水量を相互に補完したとみられる溜池のネットワークがめぐらされており、領主的支配の下に灌溉の管理・統制が行われ、公共性の高い工事が推し進められたものと推測される。これらの溜池の中には、完形の鉄鍋や、舟形かとみられる木製品が出土するなど、雨乞いに関する祭祀が執り行われた可能性が考えられるものもある。大野江瀬遺跡でも、中世後期から近世の溜池が25面検出されており、その時期は15世紀後半～16世紀前半と16世紀後半以降に大別される。前者は比較的小規模で楕円形を呈し、短い溝で複数の溜池と連結するが、河川等からの導水のための長い溝とは連結せず、水源は中尾新保谷内遺跡と同様に湧水と天水と考えられ、その多くは17世紀中頃までに埋没している。文献によれば、元和2年（1616）に、上田村の鎌仲庄八郎が大野新村1,000石の開拓事業に着手した。大野表出の北側にあたる三月田の第1次開拓を皮切りとし、第5次開拓で大野中央部の県道以南にあたる最も広大な部分の水田化を図るために、群奉行に助成を願い出て、元和6年（1620）に上庄川から大野用水を引いた。その際、泉村を通過しなければ用水路を引けないため、泉村は見返りとして水利権を得、その結果、泉村領内に120面もあったという小さい溜池をすべて埋めて水田化したという。現在の中尾は泉村に含まれる。このことから、中尾新保谷内遺跡で検出した溜池や、大野江瀬遺跡の15世紀後半～16世紀前半の溜池の多くは、大野用水の開削に伴って、不用のものとして埋められた可能性が高いと考えられる。しかし、河川・用水のみでは水需要は満たされず、18世紀以降も、谷頭を堰き止めたダム式の大型溜池が各地に築造された。中尾の谷内池は現在もその用を果たしている。平成の今に至る溜池灌漑の基礎が、中世に築かれたことが今回の調査で明らかになったのである。

（越前慎子）

## 報告書抄録

ふりがな	なかおかやといせき・なかおしんばやいせき・しんめいきたいせき・おおのえぶらいせきはくつちょうきはうこく						
書名	中尾茅戸遺跡・中尾新保谷内遺跡・神明北遺跡・大野江瀬跡発掘調査報告						
副書名	能越自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘報告						
巻次	通						
シリーズ名	富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告						
シリーズ番号	第41集						
編著者名	越前猪子、高柳由紀子、朝田重要、泉英樹						
編集機関	財团法人富山県文化振興財団 埋蔵文化財調査事務所						
所在地	〒930-0887 富山県富山市五福4384番1号 TEL 076-442-4229						
発行年月日	西暦2009年3月13日						
ふりがな	ふりがな	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	度	度		
中尾茅戸	永見市 中尾	16205	205316	36度 50分 48秒	136度 56分 48秒	20020924 ~ 20031118	道路(能越自動車道)建設に伴う事前調査
中尾新保谷内	永見市 中尾	16205	205049	36度 51分 4秒	136度 57分 0秒	20020522 ~ 20041209	19,344
神明北	永見市 中尾	16205	205368	36度 51分 13秒	136度 57分 7秒	20020703 ~ 20020925	3,120
大野江瀬	永見市 大野	16205	205317	36度 51分 26秒	136度 57分 28秒	20040525 ~ 20041109	12,229
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
中尾茅戸	集落	弥生後期～古墳時代	自然流路 溝 土坑	1条 15条 35基	弥生土器・土師器		
		古代	掘立柱建物 溝 土坑	1棟 3条 27基	土師器・須恵器・鉄滓		
		中世	柵	1箇所	中世土師器・珠洲・中国製青磁・ 中国製染付・古瀬戸・瀬戸美濃・ 上質土器・土製品・木製品・石 製品・金属製品		
		近世			越中瀬戸・唐津・伊万里・金剛製品		
中尾新保谷内	集落	縄文前期			縄文土器・石器	把手付石皿が出土	
		古代	塼 溝 土坑	2箇所 74条 262基	土師器・須恵器・黒色土器	黒色土器鉢が出土	
		中世～近世	掘立柱建物 塼 溝 溜池 井戸 土坑 柵	1箇所 236条 17面 23基 1791基 2箇所	中世土師器・珠洲・中国製白磁・ 中国製青磁・中国製白磁・中国 製染付・古瀬戸・瀬戸美濃・土師 質土器・瓦質土器・越中瀬戸・唐 津・伊万里・土製品・木製品・石 製品・金属製品	中世前期の集落跡 中世後期～近世の溜池	
神明北	集落	弥生後期～古墳時代・ 古代	溝 土坑	1条 89基	弥生土器・土師器・須恵器・木製 品	墨書き土器が出土	
		中世	溝	3条	中世土師器・珠洲・中国製白磁・ 中国製青磁・中国製白磁・瓦質土器 ・石製品・金属製品		
		近世			越中瀬戸・唐津・伊万里・土師質 土器・金属製品		
大野江瀬	集落	弥生後期	自然流路	1条	弥生土器・木製品・石器		
		中世～近世	溜池 溝 土坑	25面 39条 391基	中世土師器・珠洲・中国製青磁・ 中国製染付・瀬戸美濃・越中瀬戸 ・唐津・伊万里・木製品・石製品 ・金属製品	中世後期～近世の溜池	

2009(平成21)年3月13日 印刷  
2009(平成21)年3月13日 発行

富山県文化振興財團埋蔵文化財発掘調査報告第41集  
**中尾茅戸遺跡**  
**中尾新保谷内遺跡** 発掘調査報告  
**神明北遺跡**  
**大野江淵遺跡**

- 能越自動車道建設に伴う  
埋蔵文化財発掘報告書 -  
(第一分冊)

編集・発行 財團法人富山県文化振興財團  
埋蔵文化財調査事務所  
〒930-0887 富山市五福4384番1号  
TEL 076-442-4229

印 刷 株式会社 チュエツ  
〒930-0057 富山市上本町3-16  
TEL 076-495-1310